

13010 児童教育演習Ⅰ a Pupil Education SeminarⅠ			3 年次～ 通年 4 単位
担当者	池内 耕作	履修可能学科	Pe 必
		関 連 資 格	
サブタイトル	教育改革の命題と論争		
授業内容・ ねらい	さまざまな場面で提示される教育改革に関わる言説（命題）を取り上げ、これらの言説に対する論争を吟味し、背後にある問題の本質と有効な対策を析出していくことをねらいとするゼミです。 各回のテーマ（命題）は毎年異なります（下記授業計画ではその一例を示しています）。 各テーマについては賛成派・反対派それぞれの調査・発表担当者を決め、発表してもらいます。この発表に基づいて適宜、池内が補足を行なったうえで、討論します。		
授業計画	【第01回】 いじめられる者にも責任がある 【第02回】 体罰を公認するべきである 【第03回】 不登校は‘問題’ではない 【第04回】 教育基本法に‘愛国心の涵養’を盛り込め 【第05回】 青年に兵役義務を課すべきである 【第06回】 学校間競争・教師間競争が教育の底上げにつながる 【第07回】 軽度発達障害児も特別支援学校に行くべきだ 【第08回】 少年犯罪者の実名を報道せよ 【第09回】 小学校にパソコン教育はいらない 【第10回】 全国統一テストを導入せよ 【第11回】 ネオ・コンサバティブの思想が教育を救う 【第12回】 問題教員はすぐにやめさせろ 【第13回以降】 自由課題 ※テーマは毎年変わります。上記テーマはその一例です。最初の授業で前期のテーマを指定します。		
教科書 参考書	自ら資料を見つけ出してくる能力を重視しますが、資料の作成にあたって必要な場合は随時指示・指導します。		
評価方法	①出席状況、②試験（レポート）、③調査・発表の意欲と質、④ディベートへの貢献度、の4点について評価します。とくに③④については、以下の観点から評価を行います。☆自分が担当する命題について、既存の論争の流れを調査したうえでまとめ、かつ自らの考えを論理的に発表することができる。☆ゼミにちゃんと出席し、自他の発表内容を確実に理解し、積極的にディベートに参加することができる。		
事前準備学習 履修条件等	【履修条件】新聞を読むなど教育の最新事情に対するアンテナを張り続けていること。どのようなトピックについても簡単な説明ができるよう努力していること。		